

組織的な授業改善と生徒の主体性の育成 【観点Ⅱ、Ⅲ】

大分市立植田南中学校（生徒数513人 学級数20） 大分教育事務所

現状・課題

- ・ 学力調査等で、思考・判断・表現を問う問題への苦手意識が強く、具体的記述が少ない。
- ・ 授業評価アンケート等で、「自分の考えを表現できる」「分かった・できた」に課題
- ・ 生徒が「本当に考えたい」と思えるような、主体性を引き出す問いの設定が不十分

「表現する力」の育成

教師の授業改善

×

生徒主体の学習環境

授業改善サイクルの徹底

研究主任を中心に全教職員による授業公開・参観を実施。**全参加者がコメントを返し**、指導力を向上。英語科の「クラスルームイングリッシュ」等の**ベテラン教員の指導法を若手に継承**

対話を活性化する「課題設定」

教科部会で「**対話が活性化**する課題づくり」について具体的に協議。生徒の身近な事象と結び付けるなど、生徒の思考を揺さぶる発問の質を向上



「表現する力」を重視したアウトプット

教師主導を脱却し、生徒に「説明させる」活動を**意図的に設定**



ICTと振り返りの充実

ロイロノート等を活用し**情報の整理・交流を充実**。授業終末の振り返りでメタ認知能力を育成

生徒会主導の「4本柱」推進

「挨拶・時間・返事・聴く姿勢」を生徒会自ら徹底。教師主導ではなく**生徒自身が「学習の土台」を作る**。

「授業6カ条」の見直し

生徒会が中心となり、従来の規律定着を目的とした「授業6カ条」から、生徒自身が**授業を改善していく視点**を取り入れた具体的な行動目標へ転換する。



自立的な行事・学校運営

先生の指示を待たずにリーダー層が動き、必要な指示を出す。**「自分たちでつくる」**という当事者意識の醸成



心理的安全性の醸成

「**意見を否定されない**」雰囲気作りにより、安心して表現できる文化を確立し、授業への前向きな姿勢へ。

取組内容

成果

- 全国学力学習状況調査において、全教科全国平均正答率を上回っている。また、観点別正答率の「思考・判断・表現」において、全教科全国平均正答率を上回っている。
- 教師や仲間の意見を基に、自分の考えを修正・追加する主体的な学びが定着している。
- 生徒会役員が自立し、行事等で高いリーダーシップを発揮している。

周囲の声より

- 【生徒】自分の意見が否定されないの、安心して発表や相談ができるようになった。
- 【教員】同僚の助言や授業評価アンケート等を通じ、自分の取組が成果を結んでいることを実感し、意欲が高まった。

導入を検討する学校へ

- ・ 生徒会に主体的な規律（挨拶・時間等）の推進を任せ、授業改善の前提となる学習の土台をつくる。
- ・ 授業の目標や規律を生徒自身が見直す場を設け、主体性の育成を図る。
- ・ 育成を目指す資質・能力を明確にし、取組を焦点化する。